

## 北海道漁業協同組合連合会

北海道漁業協同組合連合会(北海道ぎよれん、櫻庭武弘代表理事会長)は、全国の約4分の1の生産量を誇る水産王国・北海道において、道内79の漁業協同組合(漁協)

で構成する組織で、年間の総取扱高は3000億円を超える国内最大の漁連である。

そのスケールメリットを生かし、「サケ」、「ホタテ」、「コンブ」の北海道三大魚種を中心とした国内外への販売事業を核に、漁業者への燃油をはじめ漁網・資材や物資の供給を行う購買事業、各種漁政活動や漁業環境の保全対策、漁協経営の指導強化を行う指導事業のほか、商品開発・宣伝事業など、多種多様な事業展開を図っている。

「安全で良質な北海道の水産物を適正な価格で安定供給することにより、漁業者には魅力ある漁村づくりを、消費者には信頼とおいしさを提供する」という社会的使命を果たしていききたい」と同連合会の西英司・代表理事専務は話す。

近年、国産の水産物は、中国や韓国、欧米など、海外への輸出が増加の一途をたどっている。こうした中で現地では、北海道産の良質な水産物が高く評価されていると

「北海道の水産物は天然物が殆どで、安心・安全が評価され、健康志向にもマッチしている。海外への輸出事業を拡大すること、国内魚価の適正維持と安定供給を図っていききたい」(西氏)。

国内販売事業では実需先への直販事業を強化している。新鮮で良質な水産物を、より早く、より多くの消費者に届けるため、荷受・問屋のほか生協や量販店、外食産業、学校給食などへの販路を拡

大。また、サケフレックなど100種類以上に及ぶ「ぎよれんブランド」加工品などの商品開発を進め

## 安全で良質な水産物の輸出・直販を強化 生産コスト削減・独自ブランド開発に取り組む

上の大きな課題であることから、同連合会では水産物の水揚げに必要な燃油・漁業資材の安定的な供給に向けて、漁協との組織購買を推進している。燃油については、全道を網羅する燃料タンクを125基所有し、また、利尻島や焼尻島など離島への安定供給のため油送船「ぎよれん丸」を定期運航している。魚網・ロープなどの漁業資材については、中国・韓国・タイなどで現地生産することで、価格を大幅に低減した「系統独自ブランド」を開発するなどコスト削減に努めている。

また、2002年には漁協系統としては初めて一級設計士事務所登録を果たし、ノウハウを活かした漁協施設の整備に取り組んでいる。

同連合会ではグループ企業11社を有しネットワーク構築を進めており、北海道内5カ所、茨城県1カ所に水産加工施設を配置している。これら直営工場に加え、漁協工場・提携工場との連携により一次加工から高次加工まで、幅広い商品の製造と商品供給を実現している。

また、道内の漁協・漁業者とともに、「お魚を殖やす植樹活動」や「河川・パトロール」等を行い、豊かな魚介類を育む北海道の海を守る環境保全活動にも意欲的に取り組んでいる。

◇  
▽本所 札幌市中央区北3条西7丁目VURL  
|| <http://www.eyor.co.jp/>



海外での消費量拡大に向けて現地での販売促進にも積極的に取り組んでいる(中国での直販活動)